

2025年12月期 通期決算 質疑応答の要旨

2026年2月12日に公表した2025年12月期通期決算、および「VISION 2030」「中期経営計画(FY2026～2028)」に関して、当社宛に頂戴した資本市場の皆さまから主なご質問とそれに対する当社回答の要旨は下記の通りとなります。

Q1. マーケティング・コミュニケーション事業の2025年12月期第4四半期の実績について、売上が力強く伸び、成長モメンタムが加速した背景を教えてください。

A1. 年末の季節要因に加え、既存顧客の拡大および新規案件の獲得が、オーガニック・電通グループとの業務提携ともに順調に進んだことが主な要因である。

Q2. 2026年12月期の業績予想については保守的か。また、上期・下期の偏重はあるか。

A2. 2026年12月期の業績予想は保守的に見込んでいる。背景として、基幹システムの入替えや、中期経営計画で触れた成長投資に向けて、M&A費用等を見込んでいるためである。収益、Non-GAAP営業利益ともに、上期・下期での大きな偏りはなく、例年通りの季節性を踏まえた計画としている。

Q3. 2025年12月期における一部顧客影響については、いつ頃一巡する想定か。

A3. 2025年4月以降、この影響が生じているため、2026年12月期の第1四半期までは影響が続く見込みであり、第2四半期以降で一巡する見通し。

Q4. 中期経営計画で公表された3か年計画の数値の前提について、と2030年に「Non-GAAP営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益ともに100億円」という目標への達成確度について。

A4. 中期経営計画における3か年計画は、既存事業のオーガニック成長をベースとした計画として策定している。2030年の目指す姿に向けては、既存事業の持続的な成長を着実に進めながら、キャピタルアロケーションのなかで触れている成長投資によるインオーガニック成長を含めて、達成を目指していきたいと考えている。

Q5. キャピタルアロケーションにおける成長投資の具体的なイメージについて教えてください。

A5. 「事業の探索」に向けた、顧客の企業価値向上に資するケーパビリティ拡張への投資と、「事業の深化」に向けた、既存事業の競争力強化のための投資、またAI・人的資本・社内環境整備等の社内投資を主な投資検討領域としている。M&Aに際しては資本効率を重視し、企業価値の最大化に資する投資判断を厳格に行いたいと考えている。